

北海道の印刷

9

第844号

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

2026年9月10日発行

北海道の難読地名

丸瀬布

難読レベル

★★★★☆☆

山彦の滝(紋別郡遠軽町丸瀬布上武利)

CONTENTS

3~8 第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会盛大に開催される

8 新規加入組合員紹介

8 業界のうごき

9 営業マンのための研修会のご案内

10 令和8年度全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会・第31回北海道青年印刷人フォーラムのご案内

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <https://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

第34回北海道情報・印刷文化典 札幌/小樽大会盛大に開催される

第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会が、8月21日午後2時30分から、記念式典・記念講演・記念パーティを、小樽市のグランドパーク小樽で、来賓、組合員、賛助会員、印刷関連企業約100人が参加して開催された。

記念式典

記 念式典は、14時30分から開催され、開会のあと、下國延彦実行委員・札幌副支部長の先導で印刷産業人綱領唱和を行った。

次に、岡部信吾副大会長・実行委員長・札幌支部長が、「全道の組合員の皆様、関連業界の皆様、ようこそ第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会へお越しいただき、誠にありがとうございます。本日ここにご来賓に臨席を賜り第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会を開催できることは大きな喜びである。本文化典は昭和25年7



下國延彦氏



岡部信吾氏

月に北海道印刷製本業者懇親大会として、第1回大会を開催したのが始まりで、当時は各都市で毎年開催されていた。その後、昭和50年から3年毎の開催となり現在に至っており、平成17年からは時代に沿った名称にすべく、北海道情報・印刷文化典に変更され、今回の開催で76年、34回目を迎える。例年は主管支部の都市で開催していたが、今回初めて札幌支部が主管し、小樽にて開催させていただくことになった。本文化典の記念講演では、全日本印刷工業組合連合会から会長の瀬田章弘様と常務理事の江森克治様を講師に、ニュープリンティング株式会社専務取締役の菅野孝市様にコーディネーターをお願いして、存在理由の再定義へ～地域社会の課題と印刷会社のポジション～をテーマに明るい印刷業界の未来を語っていただく。記念パーティでは、美味しい海鮮をはじめとした小樽の味覚を堪能していただき、アトラクションでも楽しんでいただければ幸いである。本文化典の目的は、全道の組合員が一堂に会して喫緊の問題や課題を共有し、経営基盤の安定強化を図るとともに組合員の親睦と連携を深めて業界の発展を図り、印刷産業をHappy Industryとして未来永劫繋いでいくひとつの機会にすることにある。是非ともこの文化典をひとつの契機として、少しでも前進されることを願っている」と歓迎の



あいさつを述べた。



岸 昌洋氏

次に、来賓紹介につづいて、岸昌洋大会長・理事長が、熊本県での地震ならびに千葉県での豪雨で犠牲になられた方々にお悔やみと、被災された方々にお見舞いを申し上げ、参加された来賓、組合員、賛助会員、印刷関連企業にお礼述べ、「第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会を、札幌支部と小樽支部の連携主管により開催できることを嬉しく思う。北海道情報・印刷文化典は、戦後間もない昭和25年に第1回を開催し、76年におよぶ34回という長い歴史を重ねるなかで、初めて2つの支部が連携しての開催となる。本文化典は、世の中が大きな転換点を迎えているなかで、全道の組合員・賛助会員ならびに関係各位が一堂に会し、直面する課題を共有し、解決策を見出し、経営基盤の安定強化を図り、親睦を深め、連携をより強固にし、世の中に必要とされる印刷産業としての確立を図るため、開催できることは誠に意義深いものがある。印刷産業は、これまでも人々の生活・文化の向上・発展に貢献しており、現在も欠かせない産業となっている。技術の進歩によりメディアは紙媒体から移行しつつあるが、媒体が変わっても印刷の果たす使命・本質は今後も変わることはない。我々は、活版からオフセット、アナログからデジタル、インターネット、昨今は生成AIと取り巻く環境は常に大きく変化してきたが、そのたびに課題を乗り越えて、今を迎えている。新たな価値創出・事業領域拡大に向け

た協創を果たし、暮らしと文化を支える産業としてさらなる発展を期していく。改めて、組合連携組織力の持つ力に意識を集中し、有益な印刷製品・サービスの提供に努め、国民生活および文化を支え、人々の暮らしを彩り、幸せを創る産業として発展の道を歩んでいく。本文化典の開催準備と運営のため尽力いただいた岡部札幌支部長・米澤小樽支部長をはじめとする札幌・小樽支部の皆様には衷心より厚く感謝とお礼を申し上げる」と述べた。

次に、来賓を代表して3人から祝辞が述べられた。



藤田真理子氏

藤田真理子経済産業省北海道経済産業局地域経済部次長は、「第34回北海道情報・印刷文化典が、多数の皆様の出席のもと盛大に開催されることを、心よりお慶び申し上げます。本大会は、業界の持続的発展に向けた課題を共有し、その解決策を議論する意義深い場であると承知している。貴組合では、これまで組合員の経営基盤強化に資する取り組みを推進され、北海道の印刷産業の発展に貢献してこられた。岸理事長をはじめ、歴代役員並びに組合員の皆様の尽力に対し、深く敬意を表する。前回大会から3年が経過し、我が国経済は賃上げや設備投資が高水準で推移し、政府目標のGDP600兆円を達成するなど、成長型経済への移行が着実に進んでいる。北海道では、次世代半導体工場や商業宇宙港の建設など、我が国の将来を左右する大型プロジェクトが相次いで動き出している。こうした流れを確かなものとするため、政府では地域未来戦略を閣議決定し、大規模投資を核とした産業集積等を目指した取り組みを推進している。北海道においては、半導体・AI、宇宙、洋上風力の3つの戦略産業クラスター計画が策定され、投資促進やインフラ整備、人材確保を一体的に支援していくこととしている。貴組合では、AI活用をはじめとするデジタル化の推進など、課題解決と新たな価値創造に向けて果敢に取り組まれていると承知している。印刷業界でも慢性的な人手不足という課題に直面する中、AIの活用は業務効率化を通じて経営基盤の強化や生産性向上に資するものである。今後、地域未来戦略で推進するAIをはじめとする新たな需要の広がりに対しても、皆様が果敢に挑戦されることを期待している。皆様の取り組みを支援するため、当省でも、生産性向上や取引適正化、適切な価格転嫁の促進を通じて、持続的な賃上げを実現できる環境整備に一層取り組んでいく。皆様が新事業や新展開に果敢に挑戦し、

印刷業界の持続的な発展に向けて活躍されることを期待するとともに貴組合ならびに組合員の皆様の益々の発展を祈念する」と述べた。



印刷業界の持続的な発展に向けて活躍されることを期待するとともに貴組合ならびに組合員の皆様の益々の発展を祈念する」と述べた。



瀧川雅晴氏

瀧川雅晴北海道後志総合振興局長は、「第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会が盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。北海道印刷工業組合の皆様におかれては、日頃より、印刷産業の振興を通じ、道民の生活の質の向上や本道経済の発展に多大なる尽力をいただいていることに深く敬意を表する。人口減少をはじめ、デジタル技術の進展や脱炭素化、近年のエネルギーや原材料価格の高騰などにより本道の社会経済情勢が大きく変化する中、貴組合は印刷産業を取り巻く環境の変化に柔軟に対応していく事業展開の支援に取り組まれており、印刷産業のさらなる発展への牽引役として、大きな期待が寄せられている。こうした中、本大会では、明るい印刷の未来を語るをテーマに、直面する課題の共有や解決策の探求をはじめ、経営基盤の安定強化につながる知見の共有が図られると伺っており、大会の成果が、印刷産業の未来に向けた各地域の取り組みに大いに活かされるとともに、全道から集まりの皆様が一層連携を深められることを心から期待している。近年、本道が優位性を持つ、エネルギー、デジタル、食などの分野において、次世代半導体製造をはじめ、GXやAI—DX関連産業の集積など地域の皆様とともに進めてきた取り組みが具体的な形となって現れてきている。道としては、こうした新たな成長産業への参入を促進しながら、地域の持続的な発展に向け、今後も貴組合をはじめ関係する皆様と連携し、伴走型の経営相談や制度融資、新事業展開や販路拡大への助成など中小企業の皆様の多様な経営課題に対応していくとともに、賃上げ環境整備への支援や100億円の特

別融資枠を新設し金融支援に万全を期すなど足元の

物価高対応緊急経済対策にも取り組んでいくので、今後とも皆様の理解と協力を賜りたい。本大会の盛会と、北海道印刷工業組合のますますの発展ならびに組合員の皆様の健勝と活躍を心より祈念する」と述べた。



瀬田章弘 氏

瀬田章弘全日本印刷工業組合連合会会長は、「第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会が、盛会に開催されることを心から喜び申し上げる。全印工連では価格競争から価値協創、もう価格競争はやめて地域の皆様と新たな価値を作っ

ていこうと、価値協創をスローガンに掲げ、現在84のさまざまな事業を展開している。印刷業界は大変だという声を聴きくが、確かに数字をみても2019年コロナ前から比べて印刷情報用紙出荷量は37%減、約4割の印刷情報用紙が消滅した。しかしながら取適法、価格転嫁、我々の事業の成果の一因でもある価格の転嫁が進み、過去3年ほどを見ると印刷出荷額は5兆円で下げ止まりしている。また売上高ベースでみるとコロナ前と現在を比較して7.1兆円と減っていない。このことは我々印刷業が紙を中心に紙以外にさまざまな付帯サービスを展開している証である。我々は紙も売るし、デジタル、IT、BPOとさまざまなお客様の困りごとに応えることができる唯一無二の産業である。我々はこの力を活かし、また本日参集の皆様のネットワークの力を活かし、さらに地域やお客様に貢献すべきと私は考えている。北海道は開拓者精神によって開かれた土地である。今、我々に必要なのはフロンティスピリッツである。是非、先達の開拓者精神にもう一度想いをいただいて、しっかりその思いにこたえられるよう、そしてすべての産業に接点があり、地域に根差した我々印刷業が、北海道の発展に是非貢献していただきたいと願っている。北海道印刷関連業者の皆様の益々の発展と本日参集いただいた皆様の健勝を祈念申し上げます」と述べた。



矢吹英俊 氏

祝電披露につづき、文化典宣言提案に先立ち、矢吹英俊実行委員・札幌副支部長から、「市場全体は縮小傾向が続くものの、デジタル印刷・AI連携サービス・包装など成長領域への転換が、印刷業界の未来を左右する重要な鍵となることが考えられる。このような経済環境や経営を巡る課題への対応が求められている今だからこそ、より一層の

自助努力に加えて、組合員による連携の取り組みが、持続的発展と地域活性化に重要な役割を果たすとの認識の下、相互扶助の精神に立ち返り、団結がなせる相乗効果を強力に発揮することが必要である。組合に加入しているメリットは、組合の事業に積極的に参加し、利用することから生まれてくる。自ら積極的に組合事業に参加して、存分にメリットを享受しよう」という旨の意見発表が行われた。

(意見発表全文は7～8頁に掲載)



齊藤満生 氏

つづいて、齊藤満生実行委員・札幌副支部長から「本日、北海道印刷工業組合員ならびに関係者は、自然と人が紡ぐ笑顔をあふれるまち小樽市に集い、決意を新たに、さらなる研鑽を重ね、輝かしい発展を期することを誓い、自覚と矜持のもと、積極果敢に、企業の社会的責任を全うし、有益な印刷製品・サービスを提供し、国民生活および文化を支え、人々の暮らしを彩り、幸せを創る印刷産業として、社会に貢献していくことを宣言する」と文化典宣言が提案され満場の賛成で採択された。

次に、岸理事長から、「次回の第35回北海道情報・印刷文化典は、3年後の2029年の開催となるが、文化典の開催方法ならびに開催地について、これから3年間かけてじっくり検討させていただきたい。初回から数えて次回は約80年になる。先代の残された貴重な偉業を引継ぎ、この長い年月で時代・時勢は大きく変わっているので、多くの組合員・賛助会員・関連業の皆さんに参加いただき、有意義な大会となり、価値協創を目ざしていく契機としていくよう工夫を凝らしていきたい」と、次期文化典についての案内が行われ、記念式典を終了した。

記念講演

記念講演は、15時30分から、講師に瀬田章弘全日本印刷工業組合連合会会長、江森克治同常務理事・産業戦略デザイン室委員長、コーディネーターに菅野孝市ニュープリント株式会社専務取締役を迎え、「『存在理由の再定義』～地域社会の課題と印刷会社のポジション～」をテーマにトークショー形式で開催された。

講演は、「印刷製造」という立ち位置から離れて、需要家からの自社のポジショニングを変えて成長軌道に乗る印刷会社が少なくないなか、どのような領域でどのような可能性があるのか。従来のビジネスモデルか



らの転換にどのような考え方が必要か。そうした新しい立ち位置を探し出す一つの道筋が地域社会の課題に寄り添った事業戦略、顧客との関わり方、さまざまな領域に接点を持つ印刷会社こそが広げられる領域を示して、新たな“価値創出”への一歩を踏み出していだきたい。企業規模や資本的に高いハードルだと感じず、一方で、そうした印刷会社も悪戦苦闘、試行錯誤した末にたどり着いたポジションであることなどを熱く語っていただいた。

記念パーティ



米澤正喜氏

記念パーティは、17時30分から開催され、開会につづき、米澤正喜実行委員長・小樽支部長が、「本日は多忙のところ、小樽市までお越しいただき、臨席を賜り、誠にありがとうございます。地元支部として、心より歓迎申し上げます。小樽市は北海道の経済・文化を支えてきた歴史ある港町であり、現在も観光・産業の両面で発展を続けている。印刷業もその歩みを支えてきた重要な産業である。残念ながら、現在、小樽支部は組合員が3社となってしまったが、皆さまの尽力により、北海道の情報発信・文化継承・産業活動が支えられていることに深く敬意を表する。本日の記念パーティが、業界の連携をさらに強め、今後の発展につながる有意義な場となることを願っている。短い時間ではあるがどうぞゆっくりお過ごしください」と歓迎のあいさつを述べた。

次に、迫俊哉小樽市長から「本会が小樽で開催されたことに市長として大変嬉しく思っている。今日は各地よりお越しいただき、心から歓迎も申し上げます。印刷技術の進展、生産年齢人口の減少によって働き手の確保あるいは中東情勢も含め



迫 俊哉氏

価格高騰で皆様方は苦労されていると思う。そうしたなかで日々生産性の向上に努めていることに心から敬意を表する。小樽は石炭の積み出しで発展を遂げた町である。当時、道が敷かれ、港が整備され、頻繁に人々・物資が出入りしていた。小樽出身の作家の小林多喜二も北海道の心臓のよう表現していた。当時建設された構築物も数多く残されていて、小樽にとっては大変重要な観光資源になっている。こうした近代的な構築物がこれだけ集積しているのは全国をみてもそう多くはないと伺っている。そうしたなかで、一昨年、昨年、この2年間、観光客が800万人を超えている。昨年度は初めて宿泊客が100万人を超えたというデータが示されている。小樽の観光の課題は通過型観光と言われていたが、ここにきて少しずつではあるが課題であった通過型観光から滞在型観光へ移行しつつある。こうしたなかで行政としてもさまざまな媒体を使って小樽観光のピーアールをさせてもらっている。SNSの時代であっても観光パンフを片手に小樽観光を楽しんでいる方が数多くいる。SNSの時代で、さまざまな情報発信手段をもっているが、観光パンフは無くすることができない。これからも多言語化など内容を充実しながら観光パンフを発行していきたい。何よりも業界の皆様方の高い技術力、企画力を借りながら小樽観光の発展にこれからも努めていきたい」と述べた。



柄澤晃人札幌市経済観光局産業振興部長は、「第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会が盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます。岸理事長をはじめ組合員の皆様には日頃より北海道の印刷産業の発展をリードしていただくとともに道内の産業振興に多大なる力添えをいただいていることに深く感謝を申し上げます。印刷業界を取り巻く環境は、人手不足や昨今のエネルギー・原材料



柄澤晃人氏

とともに道内の産業振興に多大なる力添えをいただいていることに深く感謝を申し上げます。印刷業界を取り巻く環境は、人手不足や昨今のエネルギー・原材料

価格高騰で皆様方は苦労されていると思う。そうしたなかで日々生産性の向上に努めていることに心から敬意を表する。小樽は石炭の積み出しで発展を遂げた町である。当時、道が敷かれ、港が整備され、頻繁に人々・物資が出入りしていた。小樽出身の作家の小林多喜二も北海道の心臓のよう表現していた。当時建設された構築物も数多く残されていて、小樽にとっては大変重要な観光資源になっている。こうした近代的な構築物がこれだけ集積しているのは全国をみてもそう多くはないと伺っている。そうしたなかで、一昨年、昨年、この2年間、観光客が800万人を超えている。昨年度は初めて宿泊客が100万人を超えたというデータが示されている。小樽の観光の課題は通過型観光と言われていたが、ここにきて少しずつではあるが課題であった通過型観光から滞在型観光へ移行しつつある。こうしたなかで行政としてもさまざまな媒体を使って小樽観光のピーアールをさせてもらっている。SNSの時代であっても観光パンフを片手に小樽観光を楽しんでいる方が数多くいる。SNSの時代で、さまざまな情報発信手段をもっているが、観光パンフは無くすることができない。これからも多言語化など内容を充実しながら観光パンフを発行していきたい。何よりも業界の皆様方の高い技術力、企画力を借りながら小樽観光の発展にこれからも努めていきたい」と述べた。

価格の高騰などにより依然として厳しい状況が続いているものと思う。またデジタル化の急速な進展により社会において情報の多様化が加速し、文化と情報コミュニケーションの担い手ある印刷産業の果たす役割や責任はより一層重要になっている。このような変化の激しい時代ではあるが今回貴組合の皆様が一堂に会し、直面する課題を共有しながら研鑽や情報交換を重ね、経営基盤の強化や新たな時代に必要とされる印刷産業の確立など業界の一層の発展を目指しておられることは大変心強く、意義深いことと感じている。札幌市においても将来にわたり持続可能な産業基盤を構築していくため小樽市をはじめとする近隣自治体と連携を図りながら新製品・新技術の開発や人手不足対策に取り組む企業への支援を実施しているほか、DXの推進を通じた新たな付加価値創出への支援をしており、今後とも印刷産業の皆様により寄り添った取り組みを展開していく。皆様には北海道の基幹産業を支える担い手としてますますの活躍を期待するとともに今後も地域の産業活性化のため一層の理解、協力をお願い申し上げます」と述べた。



中野 豊氏

つづいて、中野豊小樽商工会議所会頭が、「世界から戦争がなくなり平和であることと、参会者のますますの健康・健勝を願う」と述べ、小樽の地酒で乾杯を行い、開宴した。

祝宴では、おたる潮太鼓保存会の皆さんにより「おたる潮太鼓演奏」がおこなわれ、アトラクションとして「リレーくじ引き」が下國延彦実行委員の進行で行われ、会場の雰囲気を一気に盛り上げた。



田村総司郎氏

祝宴が続くなか、田村総司郎副大会長・副理事長が「業界が発展し、仕入業者・メーカーとも一致団結しながら業界を盛り上げていき、皆さんの健康・健勝を祈念する」と述べ、一丁で中締めを行い、記念パーティを終了した。



おたる潮太鼓演奏



実行委員によるお見送り

意見発表

日本の名目GDPは660兆円を超え、経済規模は拡大している一方で、原材料費の高騰や円安による物価への影響のため実質成長が伸び悩んでいるという厳しい局面があります。

印刷業界は近年、需要縮小・原材料高騰・人材不足・デジタル化という複数の構造的課題に同時に直面しています。

紙媒体の需要は出版・商業印刷を中心に縮小が続き、出版関連はデジタル化の影響で縮小基調が続いています。

また、昨今は物価高騰や原材料価格の上昇が続き、印刷料金への価格転嫁が重要な経営課題となっています。

特に、中小企業では交渉力の弱さから負担が重く、事業継続に影響が出ています。

さらに、中小印刷企業では経営者の高齢化と後継者不足が深刻化し、廃業や大手企業への事業譲渡・統合が進むなど再編が加速しています。

一方で、生成AIやデジタル印刷の普及により、組版・校正・デザインの自動化、オンライン受注、可変印刷を活用したデータ連携型サービスなど、新たな付加価値創出の動きも広がっています。

我々中小印刷企業は、個企業で、これらの局面を乗り越えることは難しい状況にあります。

幸い、我々には、北海道印刷工業組合、全日本印刷工業組合連合会さらには日本印刷産業連合会の連携組織があります。

この組織力とネットワークを活かし、自助・共助・公助の3方向から事業を構築し、発展への継続ができます。

このため全日本印刷工業組合連合会では84種の事業メニューを揃え、北海道印刷工業組合では8本の柱とした事業活動を展開しています。

特に、我々印刷業界が成長への転換、さらにこの名目だけの成長から脱却し、真に豊かな経営を実現するためには、適正受注価格への価格転嫁推進、そして地域や顧客の課題を解決する新たな価値の創出、協力して価値づくりを行う価値協創が必要です。

正に、価格競争から価値協創への転換が我々には求められています。

さらに、これからは環境対応(GX)とデジタル化が業界変革の中心になると考えられます。

脱プラスチックの流れは紙系パッケージに追い風となり、環境配慮型素材や工程の省エネ化が受注条件として定着しつつあります。

また、生成AIの活用は省人化だけでなく、データ活用によるマーケティング支援など新たな事業領域を広げる可能性があります。

市場全体は縮小傾向が続くものの、デジタル印刷・AI連携サービス・包装など成長領域への転換が、印刷業界の未来を左右する重要な鍵となることが考えられます。

このような経済環境や経営を巡る課題への対応が求められている今だからこそ、より一層の自助努力に加えて、組合員による連携の取り組みが、持続的発展と地域活性化に重要な役割を果たすとの認識の下、相互扶助の精神に立ち返り、団結がなせる相乗効果を強力に発揮することが必要です。

組合に加入しているメリットは、組合の事業に積極的に参加し、利用することから生まれてきます。

どうか皆さん、自ら積極的に組合事業に参加して、存分にメリットを享受しようではありませんか。

文化典宣言

印刷産業を取り巻く環境は、中東情勢の不安定によるさらなるエネルギー・原材料価格の高騰、構造的な人手不足、賃上げに伴う人件費の増加等により厳しさが一層増しているなか、価格転嫁対策、デジタル・脱炭素への取り組み、働き方改革の推進などへの迅速な対応等が迫られるなどの課題が山積している。

このような未曾有の転換期の渦中にある印刷産業が、永続的な発展を遂げるためには、組合員各位が、過去の延長線から脱却し、新しい印刷産業へのリ・デザインに挑戦し続けなければならない。

本日、北海道印刷工業組合員ならびに関係者は、自然と人が紡ぐ笑顔をあふれるまち小樽市に集い、決意を新たに、さらなる研鑽を重ね、輝かしい発展を期することを誓い、自覚と矜持のもと、積極果敢に、企業の社会的責任を全うし、有益な印刷製品・サービスを供給し、国民生活および文化を支え、人々の暮らしを彩り、幸せを創る印刷産業として、社会に貢献していくことを宣言する。

令和8年8月21日

第34回北海道情報・印刷文化典札幌/小樽大会

新 規 加 入 組 合 員 紹 介

北海道磁気印刷株式会社

代表取締役	藤 田 靖	〒064-0822 札幌市中央区北2条西20丁目2番33号	令和8年8月1日加入 (札幌支部)
TEL.011-640-2221 / FAX.011-640-2111			

業 界 の う ご き

▶(有)K・S・Eが移転

有限会社K・S・E(酒井博幸社長)は、このたび、移転した。

新住所 〒002-8012 札幌市北区太平12条6丁目4番1号

電話・FAX番号は従来どおり。

「営業マンのための研修会」のご案内

"受注に繋げるコミュニケーション力～中長期的に結果を出し続けるために～"

北海道印刷工業組合教育研修委員会は、「営業マンのための研修会」を下記により開催する。

本 研修会では、印刷営業で長年にわたり高実績を継続された戸谷有里子氏を講師に迎え、「受注に繋げるコミュニケーション力」をテーマに、中長期的に成果を出し続けるための営業コミュニケーションのポイントについて、実際の事例や演習を交えながら学んでもらうことを目的としている。

明日からの営業活動で、すぐに実践できる内容を盛り込んでいる。

また、各社の営業力強化と事業領域の拡大につなげていただくため、参加者の交流を図る懇親会を合わせて開催する。

日 時：令和8年10月9日(金) 研修会15:00～17:00/懇親会17:30～19:00

会 場：リコージャパン北海道支社会議室(札幌市北区北8条西2丁目8番1号札幌北ビル14階)

テ ー マ："受注に繋げるコミュニケーション力～中長期的に結果を出し続けるために～"

講 師：戸谷有里子氏 Sorriso(ソリーズ)代表

内 容：別紙のとおり

定 員：30人(申込先着順とします)

参 加 費：《研修会》1,000円(消費税含) 《懇親会》6,000円(消費税含)

申込締切：令和8年9月18日(金)

申込方法：北海道印刷工業組合ホームページより申込書をダウンロードする。

<https://www.print.or.jp/training/seminar2026.html>

と た に ゆ り こ 戸谷有里子 氏 / Sorriso(ソリーズ)代表

【プロフィール】

福岡大学卒業後、ホテル勤務。その後、印刷会社において営業活動を開始(JAGAT長期営業塾修了)。営業では数百円から数百万に至るまで幅広い受注をこなし、その対応力を買われ、入社2年目にて1億円を超える新規受注を獲得するなど大活躍。現役を退くまでの19年間、予算を一度も割ることなく達成し続けた実績を持つ。

2014年、培ったビジネススキルを伝えるため人材育成活動に注力。ICBインターナショナルにてビジネスマナーインストラクター、接客接遇インストラクターディプロマを取得。行動・実践心理学を学び、現Sorrisoを設立。

著書：『断られない!営業の心得』明日香出版社



なぜ、頑張っているのに成果が出る営業と出ない営業がいるのでしょうか。その違いは、商品知識や経験だけではなく、お客様とのコミュニケーションにあります。「聞くことが大切」と言われますが、質問をすれば誰もが本音や課題を話してくれるわけではありません。受注につなげるためには、ニーズを引き出し、最適な提案へと結びつけるコミュニケーション力が欠かせません。

本セミナーでは、受注につながる営業に共通するコミュニケーションのポイントを、事例や演習を交えながら学びます。

お客様との会話がかわれば、商談が変わる。商談が変われば、成果が変わる。明日からの営業活動で実践できるコミュニケーション力を身につけていただけます。



令和8年度全国青年印刷人協議会 北海道ブロック協議会 第31回北海道青年印刷人フォーラム 開催のご案内

北海道印刷工業組合青年部委員会は、令和8年度全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会ならびに第31回北海道青年印刷人フォーラムを開催する。

今期の全青協テーマは「不完全スタート～“手持ち資源×ヒト”で踏み出す最初の一步～」。
私たちを取り巻く環境は日々、大きく変化しています。「何か新しいことを始めなければ」と感じアイデアを検討していても、日々の業務に追われるうちにタイミングを逃し、なかなか最初の一步が踏み出せない。

そんな思いを抱えている方も多いのではないのでしょうか。

しかし、新たな挑戦に必要なのは完璧な事業計画ではありません。

本ブロック協議会では、自身の強みや経験といった“手持ち資源”を見つめ直す場を設け、多様な“ヒト”との交流を通じて新たな挑戦のヒントを持ち帰っていただきたいと考えている。

新規事業相談会といっても過言ではないので、是非ともアイデアを持ち寄っていただけますと幸いである。

開催日時：令和8年10月3日(土) 【協議会】13：00～17：00(受付12：30より) 【懇親会】18：00～20：00

開催場所：【協議会】札幌コンファレンスホール(札幌市中央区南3条西2丁目6-2KT三条ビル2階 Tel：011-252-2112)

プログラム：挨拶：全青協議長 四ツ橋憲彦

「不完全スタート～“手持ち資源×ヒト”で踏み出す最初の一步～」セミナー：全青協指名副議長 小河原大輔

講演：ゲストスピーカー

※内容は若干変更となる場合があります。

登録料：【協議会】5,000円 【懇親会費】6,000円程度を予定

お問い合わせ：北海道印刷工業組合

Tel：011-595-8071／Fax：011-595-8072／E-mail：info@print.or.jp

北海道ブロック担当副議長 杉川 真(稚内印刷㈱)

Tel：090-1646-3624／Fax：0162-24-0224／E-mail：m-sugikawa@wakkanai-printing.co.jp

※詳細・参加申込は、北海道印刷工業組合ホームページを参照ください。

<https://www.print.or.jp/training/forumseinen31th.html>



山彦の滝(紋別郡遠軽町丸瀬布上武利)



表紙の解説
丸瀬布 (まるせっぷ)
アイヌ語のマウレセプ(maure-sep)＝「三つの川に分かれている(集まる)広い所」の意。
武利川、湧別川、丸瀬布川の3つの川に分かれている広いところに由来する。

参考資料：「遠軽町」WEBサイト <https://engaru.jp/>

難読レベル
★★★★☆..... 道外の方でも読める
★★★★☆..... 道民のほとんどが読める
★★★★☆..... 道民の半分くらいが読める
★★★★☆..... 道民でもほとんど読めない
★★★★☆..... 地域住民以外は読めない

※難読レベルは北海道印刷工業組合独自の基準です。